ると思われる。日本では

近な判りやすい商品にあ 識の高まり、水という身

野村のほか、日興アセッ

首定

The state of the s

メ

198 AND 1881

水と環

ジャパン代 業④水に関する機器やコ 水や廃棄物処理を行う企 タの製造・販売企業③汚 る企業②ミネラルウォー ンサルティングを行って 表・ 吉 年頃から販売額が急増 扱ったところ、2006 がピクテ社のファンドを セットマネージメント社 運用資産の適正範囲 和

就

た資産運用を提案してい

ウォーター・ファ

ものの売買であり、古典 るようになった。 ファンドが多数設定され び水に関する企業をまと されるとともに、水およ 限りある資源として認識 的な水取引である。水が タの販売などは、水その る。取水権の売買や急増 水の需要が急増してい 済発展に伴い、世界中で しているミネラルウォー 人口増加、急激なる経 金融商品として扱う 関連投資において専門チ 社(サスティナブル・ア ームを抱えているSAM

化する水関

証券会社名

UBSグローバル・アセット

フィディリティ投信

大和投資信託

道事業で収益をあげてい ォーター・ファンド」で ループの「ワールド・ウ ンを拠点とするピクテグ 最も有名なのはロンド 世界的なネットワークを ファンドなどが好成績を ピタル社のウォーター・ 有するバークレイズキャ ・スイス)、MFS社、 セット・マネージメント 日本においても野村ア

関連株を組み合わせたフ

から水関連会社と温暖化

トマネージメント社など

のまま放置すると腐敗

山の有機物が含まれ、そ 念である。汚水中には沢 とする日本発の新しい概 し、その排出権を得よう

いる。例えばフィディリ

アンドが多数提供されて

21倍)、亜酸化窒素 (温

タンガス(温暖化係数米

れ急拡大している。

3、水の浄化で地球温

られるスクリュープレス

型脱水機では、欧米製に

O。排出権を生み出す、 排水・汚水・工業廃水がC

貴重な資源となる日がく

し、多量の炭酸ガスやメ

ィディリティ・スリー・

ティ投信が提供する、フ

の温暖化効果ガスを排出

暖化係数310倍) など

暖化防止に貢献する

する。つまり世界中の汚

た水処理技術を有してい

1/10など世界最高の性

るかも知れない。

比ベエネルギーコストが

設定しており、 いるグローバル企業の上 位50社を選びファンドを 高い収益 たが、今年の1月から販 売停止措置がとられてい をオーバーしたために販

まれている。その他、 田工業など数社が組み込 もちろん日本企業も栗 水 昇とされている。 績は3年前と比べ30%上 売が再開された。運用成 人気の秘密は、環境意

出権取引 が離せないであろう。

排水の浄化でCO゚排 汚水・排水を処理し、

温暖化効果ガスを削減

2、新しい概念 汚水

境・水ファンドであり目

り、因みに日本では年間 06年中国環境統計よ 来のクリーン開発メカニ 処理されている)中国は が排出されている(20 大きな市場の一つであ 140億少の下水が完全 る。排出権取引として従 ゾの無処理の下水・廃水 中国では年間540億

控え、益々注目される環

G8洞爺湖サミットを

ジネス関連の49社(14ヵ ギー)ではウォータービ ルギー関連企業30社(10 (15ヵ国)、 クリーンエネ (愛称:水と大地とエネル ベーシック・ファンド 食料関連企業40社 る。もちろん浄化された 権取引を得る仕組みであ り、金融商品として排出 食料増産や飲料水として 水資源は農業用水として 水を処理することによ

意識の高まりを先取りし カ国)を組み入れ、環境 国の発展に役立つ、 多角的に利用でき、その

石二鳥である。

ファンド名称

ワールド・ウォーター・ファンドA、Bコース

-バル・ウォーター・ファンド

UBS地球温暖化対応関連株ファンド

グローバル・エコ・ウォーター・ファンド

愛称「水と大地とエネルギー」ファンド

地球環境株ファンド

地球温暖化対策株オープン

ズム(CDM)や共同実 水関連企業が取り上げられているファンド

る。 O膜)は世界市場の約60 場の約40%を占めてい F/UF膜)では世界市 %、また精密濾過膜(M 用いられる逆浸透膜(R る。また汚泥処理で用い 例えば海水淡水化に 急激な経済発展に伴っ 期待されている。 野でのリーダーシップが 能を誇るなど、 財となるなか、目の前の て、水が貴重な生産資本 人口の増加や新興国の この水分

2007年時点で欧州を 5兆円)の市場が形成さ 500億ユーロ (約7・ る。CO゚排出権取引は 中心に活発化し、現在約 施の概念がそのまま使え 野村アセットマネージメント 日興アセットマネージメント 国際投信投資顧問 三菱UFJ投信